

2022. 12 月のブルーベリー農園その 3

東広島市豊栄町のブルーベリー園は標高が約 400mあり、雪が多く農作業ははかどらない。安芸の自宅から週末農業で通っているが 18 日の日曜日などは、自宅から意を決して農園にドライブしたが雪多くつもり、気温 1 度の自然環境に気持ちが追い付かず農園を見回りして早々と帰った。カラスだけがカーカーと終日鳴いてる。冬ざれという言葉通りの景色が広がっている。



12 月 14 日 (水)
農園はうっすら雪景色



だから、今の作業は伐採という感じだ。地面から 30 センチ位のところから切る。新しい芽が出やすいのがこの高さのためだ。



3 段あるブルーベリー畑の剪定を本格的に始める。



3 時過ぎ雪もちらつきだししたので帰路につく。近くの農家の柿の実にカラスが数羽とまっている。冬のカラスの食べ物になる。



太くて古い枝は人の手首位の太さで幹といってもいい。今シーズンの剪定では古くて太い枝を切っていくその後で細かい剪定を進めることにしている。



12 月 18 日 (日)
里山のブルーベリー園の見回りをする。雪の上にあちこちに赤い実が落ちている。柿の実で、中はきれいに食べられて、外の皮だけが残っている。この周辺の

杉林にたくさん住んでいるカラスの仕業だ。



気温は1度で寒いし、雪は積もっているし、ブルーベリーの剪定はあきらめて農園の見回りだけをして帰ることにした。



ブルーベリー畑に緑肥用に秋に蒔いた麦科の植物が良く伸びている。



ブルーベリー畑とナンテン



雪とナンテン



ポケの蕾。

2022年12月28日

社会福祉法人安芸の郷

理事長 遊川和良

《2022年12月8日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》

